



[特集]

ドキュメント2005.10.23——競馬史に残る一日

# ディープリンパクト 無敗の三冠制覇

DEEP IMPACT  
UNDEFEATED TRIPLE CROWN WINNER

無敗の三冠馬が誕生——2005年の3歳クラシックレースは、10月23日に京都競馬場で行われた菊花賞をもってすべて終了した。なんとと言っても注目は、皐月賞、日本ダービーのクラシック二冠を含め無傷の6連勝でこのレースに駒を進めてきたディープリンパクト。その圧倒的なパフォーマンスから、単勝オッズは1.0倍、単勝支持率は79.03%、京都競馬場に集まった13万6701人“すべて”がディープリンパクトの三冠制覇を見にきたと言っても過言ではない。この日本競馬史に残る歴史的な一日を、『優駿』誌上で再現していくこととしよう。

編集部=文  
text by Editorial Staff  
[関係者コメント]  
岡本光男・平松さとし=取材  
interview by Mitsuo Okamoto, Satoshi Hiramatsu



F. Nakao

# 第66回 菊花賞 GI

M.Seki

午後3時、菊花賞出走馬16頭がパドックに登場。大勢のファンが取り囲む中、ディーブインパクトは、数日前からの怪我など微塵も感じさせない「相棒」の市川明彦厩務員と、夏の札幌で一所懸命「我慢」を教えた池江敏行調教助手の2人に曳かれて周回を重ねる。春に比べ落ち着いているのは一目瞭然。一番最後までパドックに残ったディーブインパクトは、大観衆の視線を背中に受けながら地下馬道へと消えていく。

本馬場に姿を現すと、ディーブインパクトは「コーナーへ向けて走り始める。武豊騎手の『心の声』を聞き取り、ゆったりと優雅に返していく。ここまで何もかも完璧誰もがそう思ったに違いない。



K.Yamamoto

他馬を先に行かせるため、最後までパドックに残っていたディーブインパクト



Y.Hatanaka

返し馬に入るディーブインパクト。その走りは特に気負いも感じられず、「いつも通り」の様子だった

PRC



GIのファンファーレが京都競馬場に響き渡る。ファンのボルテージも最高潮に



PRC

15時。菊花賞に出走する16頭がパドックに姿を現した。溢れんばかりのファンが1頭の馬を凝視する



PRC

パドックの内側も、多くの人でごった返していた



K.Yamamoto

春よりも落ち着いた様子で周回を重ねるディーブインパクト。左は池江敏行調教助手、右は市川明彦厩務員



K.Yamamoto

パドックで話をする金子真人オーナーと池江泰良調教助手、武豊騎手



PRC

京阪電車の中吊広告。写真は、21年前のシンボリルドルフとディーブインパクトの対比バージョン



PRC

強い冷え込みに見舞われたレース前夜から京都競馬場に並ぶファン。結局、開門前に並んだ人数は約1万2000人



T.Nishihara

ディーブインパクトの等身大馬像前では、記念写真を撮るファンたちで溢れかえっていた



金子真人オーナーの勝負服をモチーフにした布には、三冠を願うファンからの寄せ書きが多数

過去三冠馬となった、牡馬牝馬合わせて7頭のプロフィールを展示



T.Nishihara



T.Nishihara

グッズを売るショップは常に満員状態。もちろん、1番人気のディーブインパクトグッズは、飛ぶように売れていた



PRC

15時時点で入場人員の菊花賞レコードとなった。最終的には13万6701人が歴史的瞬間を見に京都競馬場に足を運んだ



昼休みにはタレントの井上和香さんをゲストに迎え、菊花賞のレース展望が行われた。司会はお馴染みの杉本清氏

T.Nishihara

## いよいよ歴史的な一日がはじまった

10月23日午前7時20分、予定を10分繰り上げて京都競馬場が開門される。前夜から降る雨足は弱まっていたものの、いまだところにより小雨がパラつくあいにくの天候。それでも、待ち人数は1万1936人を数え、その2時間前である4

時56分には指定席券が売り切れしていた。「二度と見ることができないかもしれない歴史的瞬間を、この目で直に見たい」競馬を愛する多くの人々を京都競馬場に向わせたのは、無敗の三冠制覇に王手をかけたディーブインパクトであった。

## DEEP IMPACT UNDEFEATED TRIPLE CROWN WINNER



PRC



JRA  
2周目の4コーナー。ディーブインバクトの末脚を警戒し早め抜け出しをはかる横山騎手とアドマイヤジャパン。武豊騎手とディーブインバクトはうまく外に持ち出す



Y.Kunihiro  
3～4コーナーから直線にかけての加速力がディーブインバクトの武器のひとつ

最後の直線。早めに抜け出したアドマイヤジャパンが内ラチ沿いを進む。ディーブインバクトは外から追い上げるが、如何せん前との距離はかなり開いていた



最後の直線人口、2番手を進んでいたアドマイヤジャパンが早め先頭に立つが、ディーブインバクトは慌てず、悠然と直線に向かう。ラチ沿いを懸命に粘るアドマイヤジャパンか、大外から飛んでくるディーブインバクトか。しかし、勝負はあつげなく終焉を迎える。一完歩ずつ豪

## これだけの差を詰められるのか

最後に差を詰めるディーブインバクトが、残り100mで並ぶ間もなく交わし去ったのである。道中引掛かりながらも驚愕の上がりタイムをマークし他馬を二蹴無敗の三冠制覇を成し遂げた。13万を越す大勢のファンは、大歓声をあげながら英雄の姿を目に焼き付けているのだった。

DEEP IMPACT  
UNDEFEATED TRIPLE CROWN WINNER



F.Nakao  
ディーブインバクトの走りに大歓声が起こる京都競馬場



M.Watabe  
“いつも”の末脚で抜け出してくるディーブインバクト。歴史的瞬間はもうすぐそこに

午後3時40分、割れんばかりの大歓声に包まれながら、歴史の幕は開かれた。ディーブインバクトはかつてない好スタートを見せ、中団あたりでレースを進める構えを見せる。唯一のウイークポイントとも言えるスタートの悪さを克服し、磐石の態勢——そう思ったのも束の間、いつものレースでは「勝負所」である3～4コーナーにかけて引掛かってしまう。ホームストレッチに入っても口を割り加減で、スタンドからは悲鳴にも似た喚声が高鳴り始める。ここで武豊騎手はスツと内ラチ沿いに馬を誘導し、馬群の中でなだめにかかる。1周目のゴール板を過ぎ、コーナーにさしかかる頃にはレースがもう1周あることを納得したのか落ち着き、しっかりと折り合う。しかし、かなりの距離にわたって掛かっていたのは事実。レース後半にどう響くのか……



F.Nakao  
1周目のホームストレッチでもディーブインバクトは引掛かってしまう。鞍上の武豊騎手が何とかなだめにかかる



Y.Kunihiro  
“歴史のトビラ”が開かれる。ディーブインバクトは「過去最高のスタート」を見せる



JRA  
1周目の4コーナー。シャドウゲイトが逃げ、アドマイヤジャパンが2番手、ディーブインバクトは引掛かりながらホームストレッチへ

## 運命のスタート

## 悲鳴があがる1周目

後続を引き離して逃げるシャドウゲイト。2番手には勝負師・横山典弘騎手騎乗のアドマイヤジャパン、武豊騎手はディーブインバクトを内に入れて折り合いをつける

H.Matsuzaki

